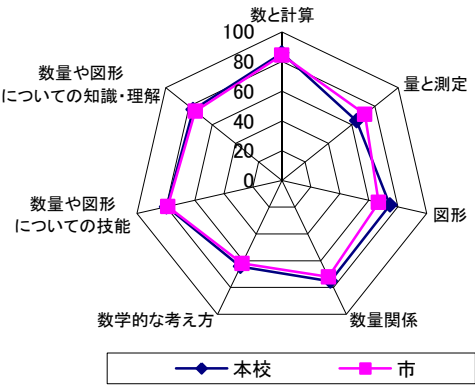


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	85.7	84.3
	量と測定	64.3	71.3
	図形	74.5	66.7
	数量関係	75.3	72.1
観点別	数学的な考え方	64.4	62.0
	数量や図形についての技能	79.6	78.8
	数量や図形についての知識・理解	76.3	74.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均をやや上回っている。分数のかけ算・わり算は全5問とも94%以上の正答率であるが、分数÷分数の文章題の設問の正答率が27.8%と非常に低く、市の平均を14ポイント下回った。	・もとにする量を求めるなどの文章題の学習に際しては、公式を確実に身に付けさせるとともに、問題文中のもとにする量や割合に印を付けたり、数直線や図に表したりする活動を取り入れ、公式に当てはめて立式できるようにする。
量と測定	・平均正答率は、市の平均よりも7ポイント低い。特に、速さの問題で、速さの単位と時間の関係への理解が十分にされていないことから、時速から分速に直すなどの設問の正答率が低かった。面積と体積の問題の正答率は、全5問中4問が80%を超えており、おおむね理解できている。	・速さの学習に際しては、速さ・時間・道のりの関係性についての理解と公式を確実に身に付けさせるとともに、時間から分への変換などについても具体的な日常生活を想起させながら問題解決に取り組ませる。
図形	・平均正答率は、市の平均を8ポイントほど上回っている。対称な図形、正多角形・円周については、いずれも正答率が80%を超えており、市の平均も上回っている。その一方で、角柱と円柱の問題の正答率が50～60%程度と低く、市の平均を下回っている。角柱・円柱の特徴への理解がなされていないことが分かる。	・角柱と円柱の学習に際しては、空き箱や積み木などの具体物にたくさん触れて調べる機会を設けたり、展開図をかいて、切り取って組み立てたり広げたりする、などの体験活動を多く取り入れることで、立体の特徴を実感をもって理解できるような学習活動を行うようにする。
数量関係	・平均正答率は、市の平均を3ポイントほど上回っている。設問別に見ると、全10問のうち7問において市の平均を上回っている。資料を見て解答の仕方と理由を文章で説明する設問の正答率が38.9%とたいへん低く、数学的な思考力と表現力が不足している。	・数学的な思考力や表現力を付けていくために、いろいろな単元において、解法の仕方や見つけたことなどを文章やことばで説明する学習活動を取り入れる。その際、よい書き方や説明の仕方を児童がきちんと学び、次に生かしていけるように、教師が模範を例示したり、優良な解答をした児童を称賛したり紹介したりすることを行う。